

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人一人が自分の生活を大切にできるよう、この能力に応じることができる事を続けてもらっています。
スタッフは共に過ごす姿勢を忘れず、寄り添って一緒に笑い喜び理念の下「もう一つの家族」となるべくがんばっています。
地域との交流の機会を作るよう、紅葉の里まつりに地域の方々によるボランティアは年々増えてきています。地域と共に過ごせるよう、出かける機会や訪問していただける機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部の国道沿いの事業所は、交通量も多くなく、川のせせらぎも聞こえるのどかなところである。旧小田地区で唯一のグループホームとして開設されて5年目を迎え、管理者は地域住民に認知症について理解してもらえるよう、引き続き介護の情報を発信していく役割を感じながら交流を深めれるよう努めている。職員は、感謝の気持ちを「ありがとうカード」に記載し掲示しており、職員間での職務の振り返りや利用者へのサービスの向上に役立っている。朝は利用者を無理に起こすことはなく、朝食は自然に目が覚めた利用者から食べられるようにしている。また、管理者は職員から出された意見や提案に迅速に対応し、働きやすい環境づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 紅葉の里・おだ

(ユニット名) いちよう

記入者(管理者)
氏名 杉野 千鶴子

評価完了日 平成 26 年 10 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は施設利用者に対する介護サービスの原点だと思うため、入社時の研修で必ず話し、事務所内にも掲示することで全員の意識を統一している。 来所者にも事業所の理念をわかっていただくために、玄関に掲示しホームの目指す方向を示している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員同士で、どのようなグループホームにしたいかを話し合い、介護サービスの原点という思いで理念を作成している。玄関はもちろん事務所内にも掲示し、毎日確認し、その人らしい日常生活を家庭的な雰囲気のもと過ごせるように、職員一人ひとりが実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事（クリーンデイ等）には積極的に参加している。 今年も、紅葉の里祭りを通して地域の方にたくさん参加してもらい一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) クリーンデイなどの地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしている。事業所の紅葉の里まつりには多くの地域住民が参加し、カラオケや落語を楽しむなど地域の行事として浸透し、事業所の理解が深まってきている。事業所内にAEDを設置していることを地域にチラシで周知しており、地域住民が借りにきたこともある。また、地域住民の来所時には、管理者は気軽に事業所を訪れていただきたい気持ちを伝えている。</p>	地域住民との交流が地域行事や事業所のまつりなど、特別な時だけになっており、管理者は地域住民に事業所のことや認知症を理解してもらうために、地域に発信していく役割があると感じている。町内会や地区の集会に管理者が参加するなど、もっと多く住民にも事業所のことを理解してもらえる取組みを実施し、普段から気軽に事業所を訪問してもらえるよう、地域住民との交流が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 内子町グループホーム全体で認知症への理解、グループホームへ理解を深めてもらうため毎年、地域の人や家族を対象とした講演を開いて参加を広く求めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に会議を設け、現状及び運営等に関し問題を話し合える場を設けている。スタッフ等にも、会議の内容をミーティングで伝えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、区長、民生委員、老人会長、町担当者等の参加を得て開催している。事業所のまつりや運動会、講演会など、多くの家族や地域住民に参加してもらえ、行事と一緒に開催する工夫をしており、意見を運営に活かしている。また、会議には利用者や家族が参加しているほか、多くの職員も参加している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日頃より、運営やサービスに対し相談アドバイスを得ることが出来る。運営推進会議には必ず出席していただき意見交換ができています。内子町グループホーム連絡会にも参加していただき、行政からの話も聞ける体制となっている。</p> <p>(外部評価) 町担当者には運営推進会議に参加してもらっている。町のグループホーム連絡会などにも町担当者の参加を呼びかけ、情報交換もしている。また、何か相談ごとがある場合は気軽に電話で対応してもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修や勉強会で拘束をしないケアに取り込んでいる。どうしても職員の人数が少ない時間帯に徘徊がひどくなったときは、やむ得ず一時玄関のみ施錠を行った。</p> <p>(外部評価) 現在は、徘徊の心配のある利用者もいないため、玄関は常時施錠しておらず、自由に出入りすることができる。居室の窓も施錠しておらず、転落防止と安心して外の景観を眺められるよう、利用者の持ちやすい位置に手すりを設置している。勉強会などを開催し、身体拘束をしないケアを職員間で共有し実践している。また、言葉での拘束にも気をつけており、気になる場合には、必ず職員同士で注意し合うよう心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフは外部研修にも参加し虐待防止について、年間の職員勉強会に組んでおり常日頃から職員同士でも声掛け等言葉による虐待も話せるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について、年間の職員勉強会に組んで職員全体で少しでも理解できるようにしている。 外部研修にも参加し知識の向上に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結、解約の際は必ず家族と十分時間をとり、不安や疑問点を尋ね説明を行い理解、納得していただいている。また、利用料改定時等は充分時間をとり説明し納得していただくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られたときや電話連絡の際など、ご意見やご希望及びご不満や不安なことなどをお聞きしたりして、行事に参加していただいて気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っています。年に1回は家族会において、一年間の施設の状態やヒアリハット、事故等細かく報告し対策等報告し意見を聞いている。 玄関に意見箱を設置し、ご希望や意見を気軽に投書できるようにしてある。 (外部評価) 年末にもちつきと家族会を実施し、事業所全体の状況報告やひやりはっと、事故報告などを行っている。参加できない家族には後日文書で報告している。家族より、「自分の家族が入所していないユニットの職員の顔と名前がわからない」との意見があり、玄関に1階・2階の職員の顔写真と名前を掲示している。家族から意見を聞くように努めているが、ほとんど意見は出されない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回、職員会議を行い意見提案を聞き話し合う場を設けている。また、常日頃より意見や提案を気軽に話せるようにしている。 代表者（会社）に対しては、社内アンケートが行われた。</p> <p>(外部評価) 会社全体で職員全員に無記名でのアンケートを実施しており、本社で集計して管理者に報告し意見をサービスに反映している。開設当時から勤務する職員も多く、管理者との信頼関係も良好で、職員会議に加え、日頃から気軽に意見や提案を言うことができる。職場内には目安箱の設置があり、新入職員も自由に意見や提案を出せるようにしている。意見が出された場合には、迅速に対応している。職員は、感謝の気持ちを「ありがとうカード」に記載し掲示しており、職員間での職務の振り返りや利用者へのサービスの向上に役立てている。また、定期的に代表者の訪問もあり、職員の意見を聞く機会を作っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 会社は4つの方針（顧客本位・社員重視・独自能力・社会貢献）を打ち出し職場環境が整える努力をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全ての職員が研修に参加できるよう予定し、本人が希望する研修には参加してもらっている。また、事業所内でも研修予定を立てている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 内子町グループホーム連絡会に毎月参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質向上に努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスを利用開始する際事前訪問調査を行い、本人の思いや希望・不安に耳を傾け、話し合い不安除去に努めている。出来ないことをどうすれば出来るようになるか、一緒に考え努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始にあたり、家族の思いや希望、不安なことに耳を傾け、その場で一緒に援助の方針を話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用開始にあたり、本人、家族と十分に話し合いを持ち何が必要かを考えていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に暮らしているとの意識の下、一緒に行った作業や家事に対して感謝の言葉がけを忘れないようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の時や、月1回のお便り等で本人の状況等を伝えている。訪問・電話等をお願いし、家族との時間を大切にしている。年2回の、家族交流会には出来るだけ入所者全員の方にどなたか参加していただけるよう声掛けを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人の訪問や、親戚の方の訪問など比較的多い。 以前は、自らマイピアで近隣の友人宅に行かれる入所者もいた。 (外部評価) 近隣に住む友人の訪問があり、快く受け入れをしている。家族の協力を得て自宅に日帰りしたり、お墓参りで出かけたりするなど、馴染みの関係や場所が途切れないよう支援している。偶然ではあるが、幼馴染同士の入所もある。馴染みの理美容に、2か月に1回訪問してもらい、希望者は毛染めもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 地元の方が多いため、同級生であったり幼馴染だったりと言語で花が咲くことが多い。 入所者同士が良好な関係が築けるよう、声掛けを行い孤立しない環境を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族様にお会いすることがあれば、近況をお伺いしたりご近所に住んでいらっしゃる方にはお祭り等に参加していただけるように声かけを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を利用し、本人の思いを把握するように努めている。また、スタッフミーティング等で本人の思いに気づいたことを話し合えるようにしている。日々の会話や発した言葉を大切に記録にとどめるようにしている。	
			(外部評価) 利用者が日々の会話の中で発言した言葉を記録に残すようにしている。センター方式の私の気持ちシートを使用して利用者の思いを把握するよう努め、ミーティング等で職員間の利用者に対する違いを明らかにし、利用者の思いに添えるよう介護の統一に努めている。また、思いの把握が困難な利用者には、家族から情報を聞いたり、表情や行動からくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に訪問調査を行い、センター方式を利用して本人だけでなく家族からも情報を把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の過ごし方を聞き取りだけでなく、実際の生活の中から把握し、本人の生活リズムを大切にしている。状態の変化があれば、その都度柔軟に対応し出来るだけ本人の生活が保てるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 課題や目標を介護記録の中でも共有し、本人の生活がよりよくなるために定期的なモニタリングを行い担当者会議を行い計画書を作成している。家族には、訪問時や電話等で意見を聞くようにしている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、職員の気づきなどを話し合い、介護計画を作成している。課題や目標は職員間で共有し、介護計画を職員が見える場所に置き、目標に沿ったサービス提供ができていないか確認できるようにしている。記録には「○△×」で実施状況を書き込み、モニタリングに活かしている。介護計画の定期的な見直しや状態の変化がある場合の見直しは、利用者や家族にも説明し確認している。症状の改善が期待できる場合には、家族にも協力してもらい外出などの目標を介護計画に入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その日の気づきや状態を、本人の介護記録に記録し、職員間で情報を共有し目標に向けて実践しすることで計画書の見直しにいかしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態や環境、家族構成等により通院等を柔軟に対応している。家族訪問時に、急に外出を思い立ち食事にでっかけられることもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティア（読み聞かせの会）の方が、毎月訪問していただき交流を継続し一緒に歌を歌ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に本人、家族と話し合い主治医は今までの医師を希 望すればその希望を優先し、かかりつけ医と同様状態を伝 え適切な医療が受けれるようにしている。定期的に連携医 が往診に来てくれる。	
			(外部評価) 利用者の希望がある場合には、今までのかかりつけ医を家 族の協力を得て継続して受診することができる。希望のな い利用者は、協力医をかかりつけ医としている。定期的に 協力医の往診や訪問看護があり、健康管理をしている。急 変時にはかかりつけ医の指示のもと、家族への連絡を入れ 職員が付き添い、受診や入院となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入所者の変化を見逃さないよう職員は気をつけ訪問看護ス テーションからの定期的な訪問時に、日々の様子や変化を 伝え指示や指導を受けている。何かあるときはその都度連 絡を行い、主治医との連携を取ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報提供票により現状を伝えると共に家族と一緒に問診に も応じている。入院先の相談員や主治医と連絡を取り、家 族も交えて情報交換を行い病院との関係を築いている。 また、退院後の状況についても相談員に報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所に時に方針等を確認するが、状態を見てその都度話し 合いの場を何度も設けている。情報は職員全体で把握でき るようにしている。	
			(外部評価) 「みとり介護指針」を作成し、入居時に重度化した場合や 看取りに対する事業所の方針を伝え、利用者や家族に意向 を聞くようにしている。医師や家族の協力を得ながら、今 までに2名の看取りを経験している。事業所での看取りを 希望していても、医療行為が必要になるなど最終的には入 院となる場合もある。特に夜勤時の職員の対応法など家族 にも理解してもらうため、看取りの研修会には一緒に参加 してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に行うよう年間計画を立てて行っている。また、2年に1回は普通救命講習を受けるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害に備え半年に1回消防署の指導の下避難訓練を行い、地域の自主防災組織に加えていく方向で話し合いにも参加している。	
			(外部評価) 年2回、昼間と夜間を想定して避難訓練を実施している。一昨年は地域住民9名に訓練に参加してもらい、女性には利用者の避難後の見守りをお願いし、男性には竹と毛布を使用して簡易の担架をつくり、利用者の避難を試みたが、担架で運ぶことが困難な利用者があることが分かった。参加者には実際に建物内を見学してもらい、耐震性を備えているので災害発生時には避難場所として利用できることの周知も図っている。また、消防署から実際の非常時の救助にどう動くか、何人の方が必要ななど具体的なアドバイスをもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう特に排泄介助や入浴介助時には職員全体で気をつけている。	
			(外部評価) 一人ひとりの人格を尊重し、利用者に合った声かけや対応を心がけている。排泄時には同性介助で対応している。ミーティングなどを利用して、利用者の尊重やプライバシーの保護について常に職員間で話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いを言葉や態度で示していることを見逃さないようにし、自己決定できるようにしている。誕生日には本人の食べたいものをメニューに取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入所者のその日の状態等により、個々のペースにあった生活のリズムで過ごして頂けるよう努めているが、業務に流され職員本位の流れになってしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の好みを把握し、その人らしいおしゃれや身だしなみを大切にしている。入浴の準備や朝の着替えの時、外出の準備の時など本人が着替えを選んだりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その日の状態や気分を確認し、個々の力量を見ながらできる事は声掛けして一緒に行っている。誕生日には、好きなものが食べられるようにしている。 (外部評価) 季節や行事食など楽しんでもらえるように配慮し、利用者の反応を見ながら管理者がメニューを決め、職員が調理している。朝は利用者を無理に起こすことはなく、朝食は自然に目が覚めた利用者から食べられるようにしている。魚が嫌いな利用者には、食べられるものを確認し調理法を工夫し食べてもらえるよう努めている。野菜の皮を剥くなど利用者は職員と一緒に調理を手伝っている。また、外食を楽しむこともある。	管理者は家族同伴での食事会の開催を考えており、家族や地域のボランティアの協力を得て実現できることを期待したい。また、家族と一緒に食事を楽しむことは、職員と利用者が普段どのような関係で生活しているかを見てもらえる機会でもあるため、利用者の様子を知ってもらえれば家族間の交流が深まることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分量は必ず毎回チェックし1日に必要な食事量や水分量に気をつけている。また、本人の状態に合った食事形態を工夫し、食べる楽しみにも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に、一人一人の状態に合った方法で口腔ケアを行っている。週1回、入歯洗浄剤で洗浄も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを入所当初よりチェックし、本人の行きたいサインを見逃さないようにしてできるだけトイレ誘導し、トイレで排泄することの爽快感を味わってもらえるようにしている。紙パンツ使用の方もできるだけ、布パンツに変更していけるよう誘導を心がけている。	
			(外部評価) 入所時から利用者一人ひとりの排泄パターンを確認している。職員から見やすい場所に排泄チェック表を置いてあり、確認やサインを見逃さずにトイレへ誘導をしている。職員は利用者がトイレで排泄できることを心がけて支援しており、夜間にオムツを使用している利用者にも、日中は紙パンツで対応しトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の解消になる工夫を個々状態に合った方法（乳製品・牛乳・寝起きに水分摂取等）で行っており、日頃の食事にも食物繊維の多い食品を利用するなどして工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の好みの温度や時間を、本人の状態を見ながら出来るだけ希望に添うようにしているが、中々個々の希望に添うことが難しいこともある。	
			(外部評価) 利用者は午後の暖かい時間に入浴することができ、1日4～5人の入浴支援をしている。毎日入浴したいという希望者はいない。利用者の希望する時間やお湯の温度を調整するなど気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、排泄後に声かけをしたり、時間やタイミングを替えて声かけをしたりする工夫をしている。また、利用者の状態に合わせて、2人体制で介助をするなど、安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠時間に合った生活パターンを守り、睡眠が十分に取れるよう日中の過ごし方も工夫している。日中も本人が自分で休息が取れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入所時に疾病と合わせて薬に関する情報を職員間で共有し、変更等があった場合は、必ず口頭のみでなく文章にして申し送るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴や力を理解し、楽しみを見つけ、できることへの役割を見つけ毎日の生活に張り合いが出るようにしている。また、作った作品等が皆に見えていただけるよう掲示している。また、本人の趣味（カラオケ・オセロ等）の時間が持てるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望を聞いて全員で行かないものは個々の希望を大切にしている。家族と食事やドライブに行かれることもある。 花見や紅葉狩り、外食など季節を感じてもらえるよう機会をつっている。 (外部評価) 玄関を出たところにベンチが置かれ、天気の良い日には日光浴をするなど自由に外気に触れるようにしている。季節に応じて、花見や紅葉狩りに利用者全員で出かけられるよう支援している。日常的に利用者の体調をみながら数人で道の駅などに出かけ、季節感を感じながら気分転換を図ってもらっている。家族の協力を得て、外出する利用者もいる。次年度には、家族と一緒に遠出を計画予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と話し合っご本人が金銭管理をされている方もいらっしゃるし、ホームのほうでお金を預かり買い物等外出時などに自由に使える機会も作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば、家族や知人に自由に電話を掛けたり自分で掛けられない人は援助している。 毎月、ホームのお便りと一緒に娘に手紙を書いたり、年賀状は本人の能力にあった方法で作成し毎年家族に出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下やトイレなど移動に邪魔なものは置かないようにしており、季節に応じ壁を飾るなどして季節感を大事にしている。 全室に温度計、湿度計を設置し室温等には充分配慮している。冬季は、加湿器を全室に配置し乾燥対策もしている。</p> <p>(外部評価) リビングは日当たりが良く、ソファや畳スペースもあり、利用者は自由にゆったりと過ごしている。共有スペースと居室には温度・湿度計が置かれ、こまめに確認し過ごしやすい環境整備をしている。また、冬場には加湿器を設置し、体調管理にも気を配っている。壁には季節感を感じられるよう、飾りつけをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングのソファや畳スペース、玄関のベンチなど気のあった利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 個々の部屋は、自宅で慣れ親しんだものを持ち込まれており、家族の写真や季節のものを飾るなどして居心地よくしていただいている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、加湿器、洗面所が各室にある。布団やいす、テレビなどは自宅で使い慣れたものを持ってきてもらっている。利用者自身で作った作品や家族の写真、好きな歌手のポスターを貼るなど、一人ひとりに合わせた居心地の良い空間づくりをしている。また、居室内の清掃は職員と一緒にできることを手伝ってもらいながら行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人の部屋の名札は廊下から見やすく、その人の視線の位置に入りやすいなど工夫している。トイレは、使用中かどうかわかるように使用していない時はドアを開けっ放しにするなど工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893600035
法人名	株式会社 悠遊社
事業所名	グループホーム 紅葉の里・おだ
所在地	喜多郡内子町本川2424-19
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者一人一人が自分の生活を大切にできるよう、この能力に応じることができる事を続けてもらっています。
スタッフは共に過ごす姿勢を忘れず、寄り添って一緒に笑い喜び理念の下「もう一つの家族」となるべくがんばっています。
地域との交流の機会を作るよう、紅葉の里まつりに地域の方々によるボランティアは年々増えてきています。地域と共に過ごせるよう、出かける機会や訪問していただける機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部の国道沿いの事業所は、交通量も多くなく、川のせせらぎも聞こえるのどかなところである。旧小田地区で唯一のグループホームとして開設されて5年目を迎え、管理者は地域住民に認知症について理解してもらえるよう、引き続き介護の情報を発信していく役割を感じながら交流を深めれるよう努めている。職員は、感謝の気持ちを「ありがとうカード」に記載し掲示しており、職員間での職務の振り返りや利用者へのサービスの向上に役立っている。朝は利用者を無理に起こすことはなく、朝食は自然に目が覚めた利用者から食べれるようにしている。また、管理者は職員から出された意見や提案に迅速に対応し、働きやすい環境づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 紅葉の里・おだ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)
氏名 稲田 かおり

評価完了日 平成 26 年 10 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事務所独自の理念を作り事務所内に掲示、毎日始業前に確認し理念に添ったケアを実践している。 また、ご家族や訪問者にも見ていただけるように玄関にも理念を掲示し事業所の取り組みを理解してもらっている。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員同士で、どのようなグループホームにしたいかを話し合い、介護サービスの原点という思いで理念を作成している。玄関はもちろん事務所内にも掲示し、毎日確認し、その人らしい日常生活を家庭的な雰囲気のもと過ごせるように、職員一人ひとりが実践に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) お祭りに参加し神輿や獅子舞に来てもらっている。今年も紅葉の里まつりを実施し、地域のボランティアの方より三味線や落語を披露していただき、一緒に食事をし交流を図りました。クリーンデ이의奉仕活動にも参加しました。今後もっと気楽に訪問してもらえるような機会を作りたいと思います。</p> <p>(外部評価) クリーンデイなどの地域行事に利用者と一緒に参加して交流をしている。事業所の紅葉の里まつりには多くの地域住民が参加し、カラオケや落語を楽しむなど地域の行事として浸透し、事業所の理解が深まってきている。事業所内にAEDを設置していることを地域にチラシで周知しており、地域住民が借りにきたこともある。また、地域住民の来所時には、管理者は気軽に事業所を訪れていただきたい気持ちを伝えている。</p>	地域住民との交流が地域行事や事業所のまつりなど、特別な時だけになっており、管理者は地域住民に事業所のことや認知症を理解してもらうために、地域に発信していく役割があると感じている。町内会や地区の集会に管理者が参加するなど、もっと多く住民にも事業所のことを理解してもらえる取組みを実施し、普段から気軽に事業所を訪問してもらえるよう、地域住民との交流が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域住民に理解を求める目標で内子グループホーム連絡協議会合同で認知症研修会を開催し、たくさんの地域の方に参加していただきました。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議を開催し推進委員の方の意見や要望を改善課題としている。 また、家族会、紅葉の里まつり、グループホーム対抗の運動会にも運営推進委員さんに参加して頂き、共に共有し協力体制により取り組むようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、区長、民生委員、老人会長、町担当者等の参加を得て開催している。事業所のまつりや運動会、講演会など、多くの家族や地域住民に参加してもらえ行事と一緒に開催する工夫をしており、意見を運営に活かしている。また、会議には利用者や家族が参加しているほか、多くの職員も参加している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者は事業所の現状を報告したり、運営やサービスにおいて生じる課題や疑問については、事業所で抱え込まず相談しながら協力関係を築くようにしている。 内子町グループホーム連絡会にも参加していただき、行政からの話も聞ける体制となっている。</p> <p>(外部評価) 町担当者には運営推進会議に参加してもらっている。町のグループホーム連絡会などにも町担当者の参加を呼びかけ、情報交換もしている。また、何か相談ごとがある場合は気軽に電話で対応してもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 外部で研修を受講した職員より、研修報告、勉強会を行い職員全体が身体拘束の行為を理解している。自ら外出される入所者には見守り所在の確認を行い、早朝、夜間等職員の人数の少ない時間帯は玄関のみ世情は考慮している。</p> <p>(外部評価) 現在は、徘徊の心配のある利用者もいないため、玄関は常時施錠しておらず、自由に出入りすることができる。居室の窓も施錠しておらず、転落防止と安心して外の景観を眺められるよう、利用者の持ちやすい位置に手すりを設置している。勉強会などを開催し、身体拘束をしないケアを職員間で共有し実践している。また、言葉での拘束にも気をつけており、気になる場合には、必ず職員同士で注意し合うよう心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の研修に参加したり、社内での勉強会を行い正しく理解し虐待のないケアを行っている。日常的な介護サービスでの適切な対応のあり方を折に触れ話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用されている方はいないが、勉強会を持っていつでも対応できるようにしている。また、地域で行われる研修会にも職員が交互に参加して認識を高めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約においては事業所の取り組みや介護サービスに対して状況考え方などを説明している。その際、不安に思っていることをお聞きし理解、納得をしていただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には面会時や電話等で意見や要望を聞くようにしている。気軽に意見や苦情を出していただけるように、玄関に意見箱を設置している。 また、行事に参加して頂き気兼ねなく意見を言える雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 年末にもちつきと家族会を実施し、事業所全体の状況報告やひやりはっと、事故報告などを行っている。参加できない家族には後日文書で報告している。家族より、「自分の家族が入所していないユニットの職員の顔と名前がわからない」との意見があり、玄関に1階・2階の職員の顔写真と名前を掲示している。家族から意見を聞くように努めているが、ほとんど意見は出されない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎日のミーティング、職員会議、勉強会等で意見や提案、又気づいたことを発言できるようにしている。管理者は職員の意見や要望を聞き、良いものは運営に反映している。</p> <p>(外部評価) 会社全体で職員全員に無記名でのアンケートを実施しており、本社で集計して管理者に報告し意見をサービスに反映している。開設当時から勤務する職員も多く、管理者との信頼関係も良好で、職員会議に加え、日頃から気軽に意見や提案を言うことができる。職場内には目安箱の設置があり、新入職員も自由に意見や提案を出せるようにしている。意見が出された場合には、迅速に対応している。職員は、感謝の気持ちを「ありがとうカード」に記載し掲示しており、職員間での職務の振り返りや利用者へのサービスの向上に役立てている。また、定期的に代表者の訪問もあり、職員の意見を聞く機会を作っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 会社は4つの方針（顧客本位・社員重視・独自能力・社会貢献）を打ち出し職場環境が整える努力をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 全ての職員が研修に参加できるよう予定し、本人が希望する研修には参加してもらっている。また、事業所内でも研修予定を立てている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 内子町グループホーム連絡会に毎月参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質向上に努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 契約前において事前調査で本人の住まいの状況や困っていることなど十分に把握し、また事業所にも見学に来ていただき十分に納得して入居していただけるよう努めている。センター方式のアセスメントを活用し本人の要望等を理解し安心して生活出来るよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約前にご家族の思いや考え家族の状況を把握すると共に、家族のニーズを総合的に把握しながら詳しくアセスメントが出来るよう家族にも協力してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に入居のみを前提にするのではなく担当のケアマネジャー及びサービス担当者等と話し合いながら、どのようなサービスが適しているか見極め対応するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人一人の好きなことや嫌いなことを記録し意向を確認しながら日常生活を送れるように工夫している。また、一人一人の不安や苦しみは共感し分かち合える関係作りを行っている。洗濯物たたみやシーツ交換、調理等一緒に作業を行い冗談を言って笑える関係でいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会行事での情報交換を行い家族の意向や考えに注意を払いながら共に本人を支えていく姿勢をとっている。毎月のお便りには、日頃の生活の出来事や写真も印刷して伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 全ての方ではないが以前からの理容師さんが訪問して散髪をしてもらったり、昔馴染みの友人や近隣の方と交流が持てるようにしている。手紙の返事を書いて出すなどの支援に努めている。また、「小田のたらいうどんが食べたい」要望があれば馴染みのうどん屋さんへ行く等の支援をしている。 (外部評価) 近隣に住む友人の訪問があり、快く受け入れをしている。家族の協力を得て自宅に日帰りしたり、お墓参りで出かけたりするなど、馴染みの関係や場所が途切れないよう支援している。偶然ではあるが、幼馴染同士の入所もある。馴染みの理美容に、2か月に1回訪問してもらい、希望者は毛染めもしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 座席の配慮や入浴の曜日など気の合う方同士がなるべく一緒になるよう支援し共に支えあい生活している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後も継続してその家族さんに来所していただくよう声掛けを行ったり、運営推進会のメンバーになってもらっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者一人一人の本当はどのように暮らしたいのか、言葉にしにくい思いや考えを汲み取り把握するように努めている。また意思疎通の図りにくい方においては、表情や動作から意向を汲み取ったり家族や関係者からも協力を得ながら努めています。 (外部評価) 利用者が日々の会話の中で発言した言葉を記録に残すようにしている。センター方式の私の気持ちシートを使用して利用者の思いを把握するよう努め、ミーティング等で職員間の利用者に対するくい違いを明らかにし、利用者の思いに添えるよう介護の統一に努めている。また、思いの把握が困難な利用者には、家族から情報を聞いたり、表情や行動からくみ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査等で情報を収集し今までの暮らしぶりを把握するように努めている。また、暮らしを共にする中での気付きや思考についての情報は少しずつ積み重ねておいて明らかになることも多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のリズムを理解し日々の生活の中での出来事や出来ないこと等観察しながら本人の可能性を決め付けないで柔軟な視点で把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の介護の積み重ねと本人、家族の思いや意向、気づきやアイデア等を反映し介護計画を作成している。 モニタリングを毎日夜勤帯で行い見直しは6ヶ月ごとに行っており状態に変化が合った場合は随時行っている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、職員の気づきなどを話し合い、介護計画を作成している。課題や目標は職員間で共有し、介護計画を職員が見える場所に置き、目標に沿ったサービス提供ができていないか確認できるようにしている。記録には「○△×」で実施状況を書き込み、モニタリングに活かしている。介護計画の定期的な見直しや状態の変化がある場合の見直しは、利用者や家族にも説明し確認している。症状の改善が期待できる場合には、家族にも協力してもらい外出などの目標を介護計画に入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護記録により、その日勤務していなかった職員にも解るよう毎日の状況等情報を共有できるようにしている。 介護サービスに沿ってケアを実践し、毎日評価を行い介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて受診など柔軟な支援を行っている。家族と受診結果の状況報告をして情報を共有している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 入所者が穏やかな暮らしが送れるよう地域の民生員、ボランティアの協力を得て交流を図っている。 毎月地域のボランティアの方が来所して紙芝居等読み聞かせの会の方が来ていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人ご家族の希望するかかりつけの医療機関にて継続した治療が受けれるようご家族と相談しながら受診介助をしたり、また家族が付き添ったりして通院治療を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望がある場合には、今までのかかりつけ医を家族の協力を得て継続して受診することができる。希望のない利用者は、協力医をかかりつけ医としている。定期的に協力医の往診や訪問看護があり、健康管理をしている。急変時にはかかりつけ医の指示のもと、家族への連絡を入れ職員が付き添い、受診や入院となっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 管理者が看護師であるため利用者の日常的な身体状況において詳細な観察による健康管理や一般状態の変化に応じて主治医と気軽に相談ができる。 また、週に1回訪問看護ステーションから看護師が健康管理に来てくれる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 早期に退院できるよう、病院関係者との情報を行い、退院前には管理者、責任者、看護師での病院関係者と話し合いをしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 見取り対応マニュアル、医療連携体制について説明し同意を得ている。病状の変化を気軽に報告、相談できる体制が確立されている。</p> <p>(外部評価) 「みとり介護指針」を作成し、入居時に重度化した場合や看取りに対する事業所の方針を伝え、利用者や家族に意向を聞くようにしている。医師や家族の協力を得ながら、今までに2名の看取りを経験している。事業所での看取りを希望していても、医療行為が必要になるなど最終的には入院となる場合もある。特に夜勤時の職員の対応法など家族にも理解してもらうため、看取りの研修会には一緒に参加してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域の消防署の協力を得て定期的に救命救急の訓練を受け実践力を身に付けている。事業所にADEも設置しているため、使用に関する訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防隊の協力により年2回避難訓練を行い、前回消防より指摘を受けたこと、それを元に防災マニュアルを作成し訓練を行っている。地区の防災訓練にも参加し、近隣のボランティアの方も参加して訓練を行った。 (外部評価) 年2回、昼間と夜間を想定して避難訓練を実施している。一昨年は地域住民9名に訓練に参加してもらい、女性には利用者の避難後の見守りをお願いし、男性には竹と毛布を使用して簡易の担架をつくり、利用者の避難を試みたが、担架で運ぶことが困難な利用者があることが分かった。参加者には実際に建物内を見学してもらい、耐震性を備えているので災害発生時には避難場所として利用できることの周知も図っている。また、消防署から実際の非常時の救助にどう動くか、何人の方が必要ななど具体的なアドバイスももらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者の人格や尊厳やプライバシーについて、研修を受け日常の介護時の声掛けに十分に注意を払い、排泄や入浴など介助においては、自尊心を傷つけないように注意を払いながら介助を行っている。 (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重し、利用者にあった声かけや対応を心がけている。排泄時には同性介助で対応している。ミーティングなどを利用して、利用者の尊重やプライバシーの保護について常に職員間で話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人一人の希望や好みを把握し、表情や反応を感じ取りながら日常生活の中で自己決定ができるような声掛け支援を行っている。誕生日には好きなものをリクエストしていただき楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりのペースや体調に合わせてその日に状態等を見て起床時間、食事の時間等をずらしたり個々のペースに合わせて過ごして頂けるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣に合わせて朝の着替えや化粧品の利用などを見守り不自由なところはさりげなく声掛けしなおして頂いたり、また毛染めによるおしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節ごとの旬の食材を使って季節感や食べ慣れた料理などで話題を提供したり楽しく食事をする工夫をしている。月2回は、行事などで利用者と職員が共に食卓を囲んで楽しい雰囲気で行ったり、外食の機会を持っている。誕生日には好きなものをリクエストしてもらい食べてもらっている。 (外部評価) 季節や行事食など楽しんでもらえるように配慮し、利用者の反応を見ながら管理者がメニューを決め、職員が調理している。朝は利用者を無理に起こすことはなく、朝食は自然に目が覚めた利用者から食べられるようにしている。魚が嫌いな利用者には、食べられるものを確認し調理法を工夫し食べてもらえるよう努めている。野菜の皮を剥くなど利用者は職員と一緒に調理を手伝っている。また、外食を楽しむこともある。	管理者は家族同伴での食事会の開催を考えており、家族や地域のボランティアの協力を得て実現できることを期待したい。また、家族と一緒に食事を楽しむことは、職員と利用者が普段どのような関係で生活しているかを見てもらえる機会でもあるため、利用者の様子を知ってもらえるほか家族間の交流が深まることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量を観察記録している。水分量食事量の少ない方はご自分の急須と湯のみで好みのお茶を入れ飲んでももらっている。一人ひとりの状況を把握し、体重の増加や減少に気を配り高カロリー食やお茶ゼリー等で対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けしたり誘導している。十分でない所は介助をしている。また個人にあったさまざまなブラシを準備している。義歯は夜間にポリドント消毒して清潔に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを記録にて把握している。尿意のない人にはされげなく声掛け誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるよう支援している。夜間はポータブルトイレを設置しいつでもいけるようにしている。	
			(外部評価) 入所時から利用者一人ひとりの排泄パターンを確認している。職員から見やすい場所に排泄チェック表を置いてあり、確認やサインを見逃さずにトイレへ誘導をしている。職員は利用者がトイレで排泄できることを心がけて支援しており、夜間にオムツを使用している利用者にも、日中は紙パンツで対応しトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維の多い食材を献立に取り入れている。水分摂取はもとより日常生活での運動の声かけを行い排便が3日以上ない場合は牛乳やヨーグルトをとってもらったりと工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日、時間を確認し、できる限りご本人の意向を大切にしてお風呂に入浴していただいている。入浴時は安全で本人の力が発揮できるような誘導に心がけ入浴時の負担感や羞恥心が最小限で済むよう支援している。	
			(外部評価) 利用者は午後の暖かい時間に入浴することができ、1日4～5人の入浴支援をしている。毎日入浴したいという希望者はいない。利用者の希望する時間やお湯の温度を調整するなど気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、排泄後に声かけをしたり、時間やタイミングを替えて声かけをしたりする工夫をしている。また、利用者の状態に合わせて、2人体制で介助をするなど、安心安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状況を一人ひとり把握し、日中は散歩や作業など取り入れ活動量を増やし夜間安眠できるよう促している。その日の体調や表情から疲れ具合をみて、休息していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の内服状況がわかるよう説明書を個別でファイルして共有している。 また、内服薬の変更時は申し送りノートにて共有できるようにしている。 内服治療に対する説明を勉強会を開き管理者より説明を受けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の調理や洗濯物干し、また歩けない方には洗濯物たたみや編み物等々一人一人得意なことをしていただいている。男性には買い物時の荷物持ちをしていただいたりと色々工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望にそって出来るだけ散歩や買い物、日光浴など行い戸外にて気分転換を図り生活に楽しみが持てるよう支援にしている。季節ごとの花や紅葉見物に出かけたりして気分転換を図り生活に楽しみを持っていただいている。 (外部評価) 玄関を出たところにベンチが置かれ、天気の良い日には日光浴をするなど自由に外気に触れるようにしている。季節に応じて、花見や紅葉狩りに利用者全員で出かけられるよう支援している。日常的に利用者の体調をみながら数人で道の駅などに出かけ、季節感を感じながら気分転換を図ってもらっている。家族の協力を得て、外出する利用者もいる。次年度には、家族と一緒に遠出を計画予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の意向によりお金を所持している方もいる。また、家族よりお金を預かっている方も買い物時一緒に準備してお金を支払いができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話を掛けたいと訴えた際には対応し、手紙や年賀状のやり取りもできるように支援している。 自らがかけられない方には電話をかける代行をしたり、個人の有する能力に応じた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室、ホールに湿度・温度計を設置、冬場は加湿器等で居心地よく過ごせるよう配慮している。 ホールの天窗の下は日当たりもよく冬場は入所者さんの憩いの場となっている。夏場は日差しが強いのですだれなどで工夫している。毎月壁紙を作成して季節感を出している。</p> <p>(外部評価) リビングは日当たりが良く、ソファや畳スペースもあり、利用者は自由にゆったりと過ごしている。共有スペースと居室には温度・湿度計が置かれ、こまめに確認し過ごしやすい環境整備をしている。また、冬場には加湿器を設置し、体調管理にも気を配っている。壁には季節感を感じられるよう、飾りつけをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールの窓際は日当たりがよく思い思い日向ぼっこや気の合った入所者さん同士が会話を楽しまれたり一人ひとりの居場所ができています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使い慣れている布団や家具などを持ってきて頂き居心地の良い居場所作り心がけている。また、亡くなられた息子さんの位牌や写真など家族さんに相談して持ってきてもらい毎朝お茶をお供えしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、加湿器、洗面所が各室にある。布団やいす、テレビなどは自宅で使い慣れたものを持ってきてもらっている。利用者自身で作った作品や家族の写真、好きな歌手のポスターを貼るなど、一人ひとりに合わせた居心地の良い空間づくりをしている。また、居室内の清掃は職員と一緒にできることを手伝ってもらいながら行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室の入り口に名札を背の高さにあわせて付けまた目の不自由な方や字の読めない方の居室には、飾りやのれん等目印をつけるなどの工夫をしている。廊下、トイレ、浴室には必要な手すりが設置され安全で自立した生活が送れるようにしている。</p>	